

祝！第84回メーデー

5月1日（水）

茨城中央中央メーデー会場

水戸市千波公園はなみずき広場

原点に立ってただかしの前進を！

「8時間は仕事のために、8時間は休息のために、残りの8時間は好きなことのために！」

【会場のはなみずき広場から水戸駅南口までのデモ行進】



【消費税増税反対！年金を下げるな最低保障年金をつくれ！：年金者組合】



【憲法改悪・戦争をする国づくり反対！平和外交の強化：全労連法律事務所支部】



【スローガン採択】



第84回中央メーデー実行委員会からのメッセージ

今日のメーデーを新たな起点に世界の労働者と連帯し、国民的共同の力で「すべての労働者の賃上げと長時間過密労働の是正、安定した雇用と仕事の確保、中小企業支援、社会保障拡充、震災の早期復興、原発ゼロ、憲法改悪反対」のたたかいを前進させて参りましょう。メーデー万歳！第84回メーデー万歳！



【デモ行進後に、水戸駅南口で宣伝・アピールと署名活動を行いました。】



【核兵器のない世界を実現しよう！
：原水爆禁止茨城協議会】



【医師を増やせ！看護師を増やせ！介護職員を増やせ！地域医療を守れ！：医労協】

意気高く！
鹿行地域のメーデー
鹿嶋市チェリオ駐車場
にて開催！



平和かわら版No. 654（合併号）別刷り

（1 / 2ページ）

追悼

長い間平和運動に尽力された石岡平和の会・山口裕さんのご逝去にあたり、同会の鈴木としおさんから追悼文が寄せられました。

山口裕先生の遺志を継ぐために

石岡平和の会 鈴木俊夫

4月16日、山口裕先生の告別式が行われた。一般焼香も終わり、ご導師が退場されると、次のようなアナウンスが流れた。

「故人のお別れに当たり、故人のもっとも愛した曲をお贈りさせていただきます。曲の名前は『紫金草物語』です。この曲は、北海道から沖縄まで全国各地で演奏会が行われました。その度に、どんな困難も乗り越えて聴きに行きました。この歌は、山口裕さん、そして父親の誠太郎さん親子が、紫金草に想いを託して平和の運動を続けてきたことが、主題となっている歌だからです。」

今や、紫金草は日本国内に留まらず、平和の花として、ヨーロッパや東アジアにも広まっています。そして海外公演第9回目となる今年4月の演奏会は、ニューヨークで行われ、多くの人を感動の渦に巻き込みました。

生涯を人権擁護と平和運動に捧げた故人を、この曲を聴いたとき、紫金草を眼にしたとき、ぜひ思い起こしてくださいませようお願いします。」

『紫金草物語』の中から「平和の花紫金草」の曲が静かに演奏されると、自然に涙があふれてきた。山口先生と取り組んできた30余年に及ぶことができ、走馬燈のように浮かんでくる。

山口先生は、京都大学で医学を学び、その後、多くの大学で教鞭を執った。公衆衛生、酸欠事故、溶接事故に関するスペシャリストであった。特記すべきことは、川崎市公害研究所所長として、川崎公害病の究明に尽力し、煤煙等の規制を行い、見事に公害と病気を無くしたことである。

その他に、酸欠事故を防ぐため、地下作業等の手順書を作ったり、溶接作業の防具の装備や作業時間を規制したり、と数え切れない業績を残した。

平和運動は、父親の山口誠太郎さんの遺志を継いで、「中国から来たきれいな花を咲かせてください」と、全国に種を配ってきた。先生自身も空地に種を播く活動を続けてきた。

この運動が脚光を浴びたのは、1985年の筑波科学万博で種を配ることを決めてからである。「平和の花だいいんを広める会」と名付けられたこの会は、万博を盛り上げる活動の一環として行わ

れた。地元の老人会、婦人会、商工会等の保守的団体が主体であった。革新団体は、「農民の土地を取り上げた科学万博に反対」「平和とは名ばかりで、花いっぱい運動に過ぎない」など批判的であった。

「紫金草」と本来の名に戻し、南京に里帰りする運動が始まったのは、万博終了後、3年が過ぎて発行された『緑の手帳』運動方針のひとつとしてであった。私たちはこの運動を音楽会といつしよにして進めることにした。「愛と平和の音楽会」を企画し、参加団体を募っていた。この中のひとつに大門高子さんたちの「足立のうたごえ」があり、やがて「紫金草合唱団」へと発展していった。

「茨城のうたごえ」も「合唱組曲紫金草」を発表し、筑波ノパホールで大々的な発表会を行った。しかし、その後主体的に活躍した方の転職があり、歌を広めることが出来なかった。

この運動に対しては、革新団体の幹部を名乗る方より、原稿が寄せられた。「何に使うか予算の裏付けもなく、募金活動を行うのは不当である」「中国の土地は国有地、手に入れることさえできないだろう」などと、長々と批判が書かれていた。この団体からは「インテキな平和運動」と位置づけされていたようだ。

この意見を無視して、私たちは運動を続けた。主な募金団体は、退職婦人の会、JR東日本労組などで、あとは個人の賛同者が多かった。山口裕先生や親類の方、母親大会や「紫金草物語」の音楽会参加者からの募金が多く占めていた。

こうして一千万円の日標を達成して、南京虐殺記念館構内に紫金草を里帰りさせ、広大な紫金草畑と少女像の碑を完成させた。このできごとを中国では度々報道された。教育テレビでの放映。小学5年生の教科書に掲載。「紫金草合唱団」が公演する度に多くのマスコミがきて報道した。そして今年になってから元総理大臣の鳩山由紀夫氏が南京を訪れ、その際、紫金草少女像が贈呈された。この4月には、「紫金草合唱団」の初めてのアメリカニューヨークでの公演を実現させた。

「アメリカ大統領が広島・長崎にきて謝罪し、日本の総理大臣が南京で謝罪する。これが、戦争を再びさせない道である」山口先生がよく言っていた言葉である。それに一歩踏み出したといえ

る。不可能と思えた道のりも、山口先生の言葉で開かれ、希望へ、そして確信へとつながってきた。

山口裕先生は、戦争のない世界に向けて希望の花、紫金草を残してくれた。ありがとうございます。先生はいつまでも紫金草と共に生きています。



故 山口 裕さん

原発立地の東海村から 原発廃止の運動を起す！！

東海村の9000 所帯へ、チラシ シを手配り！！



5月6日（月）、東海村中央公民館に結集した38人は、午前10時から午後5時にかけて、村内の9,000所帯に、東海平和委員会作成の「福島をくりかえさせないために―村議会は歴史に禍根を残してはならない―と、東海第二原発再稼働阻止・廃炉を求める県民性センサー作成の「本当に安全なの??東海第二原発11」の、2種類のチラシを手配りしました。

事前に東海村平和委員会の仲間が手分けして、全村を100地域に分け、その地域の所帯数分のチラシと地図を袋に入れたものを準備しました。また昼食等の準備もしました。

参加者は県北部の各平和の会・平和委員会、県平和委員会事務局、また新婦人の会をはじめ地元団体も参加しました。東海村は全所帯14,000と言われており、残り5,000所帯は今週中に配布することとしました。

平和かわら版No. 654 (合併号) 別刷り

(2 / 2 ページ)